

第4回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会 会議録

1 開催日時 平成25年12月24日(火) 午前9時00分～午後1時45分

2 場 所 市役所本庁舎3階 第5委員会室

3 出席者

委員 歌代委員、岡本委員、加藤委員、川上委員、川岸委員、前野委員、
武藤委員、山本委員

事務局 吉野次長、田中次長、岩井室長以下庁舎整備推進担当室6名

4 議 事

(1) 二次選考について

【午前9時00分開会】

1 二次選考について

- ・二次選考の進め方として、以下のとおり行う。
 - (1) 高く評価した委員の意見、低く評価した委員の意見など、各提案に対する意見の確認
 - (2) 各委員の意見を確認したうえで、2社から4社へ絞り込み
 - (3) 絞り込んだ提案について、2回目の評価・採点

注) 本会議録では、評価を行ったA～F社について、“い社”“ろ社”“は社”“に社”
“ほ社”“へ社”と標記しています。

(1) 各提案に対する意見

① い社の評価

- ・市民スペースの提案、京成線との隣接施工、交通動線、工期・工程など、課題に対しては熟慮されている。
- ・また、震災・浸水対策、将来の庁舎の可変提案、第2庁舎周辺の新しい交通動線の提案、さらに、第1と第2庁舎の人の流れについても考察されている点を評価する。
- ・執務空間は中廊下型として、合理的な配置が考えられている。
- ・協働テラスは、執務空間と区画分けされており、市民活動がよく見えるという点で評価できる。
- ・上階の協働テラスは、共用スペースとすることもでき、空間にのびしろがある。

- ・ななめの吹き抜けは、排煙など防火上対策できるのか、不安な面が考えられる。
- ・北側ファサード¹のデザインが魅力的だが、植栽の維持管理は難しい面があるのではないか。
- ・植栽については、北側であり、常緑樹にすることで対応可能と考えられる。
- ・南側ファサードの説明はほとんどなく、太陽光発電ルーバーは、効果やメンテナンス性に不安な面が考えられる。
- ・第2庁舎は1階をピロティとしているが、延べ床面積が基本構想よりも増やされており、可変性もあり十分検討されている。
- ・第2庁舎は東西貫通道路が提案されており、周辺の公共施設を含めた庁舎群として捉え、考えられている。
- ・第1庁舎は形状をひな壇状とし、狭い敷地で最大限のボリュームが確保された提案である。
- ・北側の住居地域と商業地域に挟まれているという土地柄をしっかりと理解した提案である。
- ・可視性の強い北面、京成線側からみて非常に象徴的な建物となる。日本を代表するランドスケープ²デザイナーと協働する設計体制も期待できる。
- ・展望レストランよりも、市民活動の際に立ち寄れるようなカフェテリアの方がなじみやすいのではないか。
- ・レストラン、協働テラスは市民ワークショップの意見により検討するということで、ワークショップのあり方にならなっているといえる。
- ・管理技術者が市内在住者ということで、市の実情をよく理解できている。
- ・現状の調査・分析がわかりやすく、細部まで検討されている。また、プレゼンテーションの説明もよく、質問に対して今後の検討課題が整理されていた。

② ろ社の評価について

- ・市民活動を活性化させる市民ホールとしての位置づけが重要である。その中で、市民活動の状況が、内外から認知できる配置であることが評価できる。
- ・市民活動が可視化された新しい提案があり、期待感のある提案である。
- ・議場にも親子傍聴のできる防音室があり、これも市民に開かれた提案である。
- ・八角形の議場デザインは、実際には運営が難しく、災害対策諸室の配置など市役所機能の理解が一部不十分な点も見られた。
- ・執務空間の見える化は、上階からの情報漏えいが危惧され、庁舎管理を行う上で議論になる。
- ・市民スペースなどが充実しているが、その分の面積を確保するため、地下に機械室を設置せざるを得なかったと思われる。地下2層が広く、コスト的に不利な点があり、コスト削減において積極的と言えない面があるのではない

¹ ファサード：建物の正面をなす外観

² ランドスケープ：景観。特に、人工環境と自然環境の調和を目指して構成された外部空間の総合的な景観。

か。

- ・ファサードデザインは、ルーバー³をうまく使い、まとまっている。
- ・第1庁舎は、車は東側、歩行者は西側の動線を徹底している点は評価。
- ・一方で、東側の車両の処理には難しい面もある。例えば、タクシー乗り場の転回場がないなど。
- ・緑の丘というコンセプトだが、屋上と周辺の緑化であり、十分な提案となっていないのではないか。

③ は社の評価

- ・必要条件はすべて満たした提案であるが、その分、特徴がない。
- ・バルコニーと1・2階のピロティは60～70年代の市庁舎スタイル。
- ・緑化も植栽を並べただけで、デザイン的には工夫が見られないのではないか。
- ・室内はセンターコア⁴で合理的に配置し、基準階の汎用性を高める提案だが、両端コアなどと比べると自由度に限界がある。
- ・スケルトンインフィル⁵は評価するが、センターコアのオフィス計画には限界があり、将来変化にも対応しづらい。
- ・ピロティなどの提案を実現するためには、SRC⁶構造にせざるを得なかったと考えられる。
- ・PCa⁷の採用や地下階の削減など、コスト削減の工夫はあるが、SRC造で京成線のそばに現場打ちするとすると、工事も難航し、施工コストの増大が予想される。
- ・全体的に検討不足・状況把握不足な感がある。

④ に社の評価

- ・市民活動空間と執務空間が明確に分けられており、市民活動空間が、近隣・市民に開かれている点を評価する。
- ・市民ひろばは、スケールオーバー。市民ひろば利用時のメインエントランスへの動線の確保についてもあまり検討されていない感がある。
- ・市民協働スペースを広くとっており、面積的・形状的に1・2階でワンフロアサービスが提供できるか疑問である。
- ・エコシェルフは検討不十分な点も見られたが、環境配慮の面で効果が期待できる。
- ・取り組みもはじめてということで、チャレンジングな姿勢も評価したい。
- ・京成線との近接施工について対応の記述が見られなかった。

³ ルーバー：日除け、通風のために隙間を開けて、羽根板を水平に並べて取り付けしたもの

⁴ センターコア：エレベーターや階段、設備配管スペースなどが集中するコアの位置を、建物の中央に配置する方式のこと

⁵ スケルトンインフィル：構造躯体と内装・設備などを分離した工法

⁶ SRC：鉄骨鉄筋コンクリート構造

⁷ PCa：プレキャストコンクリート。現場で組み立て・設置を行うために、工場などであらかじめ製造されたコンクリート製品、あるいはこれを用いた工法。

- ・型優先のデザインであり、6階まで基準階としているが、日影規制のクリアは厳しい。
- ・このため、階高を抑える必要があり、室内の圧迫感・窮屈感が解消できない恐れがある。
- ・デザインについては、好き嫌いが分かれる。
- ・ワークショップは、個別テーマ型により市民意見が反映できる現実的な提案となっている。

⑤ ほ社の評価について

- ・執務室が現実の組織とあっておらず、分析不足といえる。
- ・特徴はCFT⁸柱の採用。コストメリットがあるというプレゼンだったが、施工上のコストを考慮しなければならない。
- ・ファサードデザインはなじみやすいが、国道側に対する圧迫感がある。
- ・外観デザインもよく、オープンスペースもゆったりしているが、市民ひろばの配置によって、建築面積が狭く、執務空間が窮屈ではないか。
- ・市民ひろばは、防災上よいが、表面的で、1階の壁面に面しており中途半端なスペースといえる。
- ・緑化ルーバーのメンテナンスについて考慮が必要。
- ・プレゼンテーションは明瞭だった。

⑥ へ社の評価について

- ・両端コア型のレイアウトで基準階を積層しており、自由度が高い。
- ・1～3階の市民開放スペースは狭く、執務空間にほぼ隣接する配置のため、市民が自立していくような空間構成とは言えないのではないか。
- ・待合空間も、執務室とのクリアランスが少なく、狭い印象があった。
- ・他の提案のようなボイド的空間もなく、執務空間に余裕が見られない。
- ・バルコニー部分のメンテナンスはしっかり行う必要がある。
- ・コスト削減の考え方は具体的であり、地下階削減によるコスト削減は評価できる。
- ・ファサードデザインは、バルコニーがマンションのようで庁舎のイメージではない。
- ・工期を12ヵ月短縮する提案だが、短縮は評価するが実現性に疑問がある。
- ・市民ワークショップは、基本に立ち戻るようなプランだが、これでは工期短縮につながるものとなっていないのではないか。

⁸ CFT：コンクリート充填鋼管構造。鋼管の内部にコンクリートを充填した構造で、主に柱として使用される。

(2) 2社から4社への絞り込み

- ・採点で下位となった“ほ社”“へ社”は、上位4社とは点数が離れている。
- ・2～4位は点数が拮抗しており、次席者を特定するためには、絞り込んでさらに議論が必要である。
- ・委員による採点結果のばらつきを考慮し、最高点と最低点を除いた集計結果においても同様となっているため、評価結果は妥当といえる。

(まとめ)

- ・“い社”“ろ社”“は社”“に社”に絞り、2回目の採点を行うこととする。

(3) 2回目の評価・採点

- ・上位4社については、提案内容を確認しながら、もう一度議論したうえで、丁寧に採点する。
- ・採点は、5点刻みではなく1点刻みで採点し、5段階の位置づけ（10点が普通）は目安とする。

① い社について

- ・市民に開放するという要望があるなかで、区画がしっかり区切られている。
- ・協働テラスで火災が起きた際の排煙の問題については、火災発生時の避難計画の中で提案されている。どのような対応をとるのか確認する必要がある。
- ・協働テラスは、ワークショップで検討していくということであるが、3階は会議室と連動して汎用性がある。4階以上は共用空間としてゆとりになる。吹き抜け空間と動線を組み合わせた点でよく考えられている。
- ・柱のスパン（構造）は、モジュール化された執務レイアウトから検討されている。
- ・北側の構造についても、柱をグリッド状に配置していることが確認でき、荷重的にも懸念されるような要素はないといえる。
- ・北側の植栽は、常緑樹などを今後検討していく余地はある。
- ・オリンピックを控え、イニシャルコストの削減は重要課題である。その中で地下階の削減は具体的提案である。
- ・既存地下躯体の活用は、地下工事を行う際の連壁に代わるものとして可能性はある。
- ・解体工事に時間をかけている点で信頼があり、京成線とのクリアランスも取られている。

② ろ社について

- ・市民スペースは、ヒューマンスケールで大きすぎない。シティホール的な考え方が前面に出ている。

- ・市民が庁舎で活動するという将来の市役所像である。今後のスタイルになる。
- ・市民スペースを外部空間と連続性を持たせている点については評価できる。
- ・1・2階は上下どこからでも見えるレイアウトである。個人情報漏えいに対する対応を検討しなければならない。
- ・入江状の窓口は工夫されているが、実際の配置となると難しい面もある。
- ・外観は期待感があり、意欲的である。
- ・地下2層の計画は、工程計画の面から課題となる。

③ は社について

- ・センターコアはやはり自由度が低く、限界がある。
- ・ライトウェルも効果的な配置になっていないのではないかと。
- ・土壌、工期、京成線を考えるとSRC造は難しくないか。他の案ではS造を採用し、軽くするような配慮があった。
- ・建築面積も大きく、京成線に近い。京成線のそばに地下躯体を作るとなると工事は難航することが予想される。この点について、考慮されていない恐れがある。
- ・緑の庁舎をコンセプトにしているが、国道に整備される街路樹ありきとなっていないか。検討が不十分といえる。

④ に社について

- ・執務空間と市民空間のゾーニングは明解であったが、もう少し融合性があったとしてもよかった。
- ・市民ひろばは、提案のコンセプトとなっているが、広すぎる。
- ・国道がもっと広く、南側に公園などがあるなど、周辺との連続性があれば、このようなひろばも生きてくる。
- ・このようなひろばでは、活動の場や機会を提供しないと無目的になりかねない。
- ・エコシェルフの材料が決まっていないというが、設備に関するものなので、ランニングコストも考慮が必要である。
- ・南側ファサードのデザインは印象的だが、国道に対する圧迫感はないか。
- ・敷地が狭く、斜線制限も厳しい今回の状況から、どこに価値を置いた提案かが重要となる。

(まとめ)

- ・2回目の裁量をもたせた詳細な採点を行った結果、“い社”を委託候補者、“ろ社”を委託候補次席者として、選考とする。

【午後1時45分閉会】